

## 地方創生推進交付金事業について

## 地方創生推進交付金事業

### 目次

P2 事業一覧・事業概要

P3 事業KPI

P4 養老駅観光拠点推進プロジェクト事業実施報告書

○ 事業分野

事業分野(大項目) まちづくり

事業分野(詳細) ②(①を除く)コンパクトシティ、まちの賑わいの創出、連携中枢都市等のまちづくり分野

【事業一覧】

事業名	申請額 (交付対象事業費) (千円)	採択額 (交付対象事業費) (千円)	採択額 (国費) (千円)
養老駅観光拠点推進プロジェクト	33,743	33,743	16,871

【事業の概要】

養老公園及びその周辺において、地域資源に付加価値創出をテーマに、養老駅舎を核とする歴史的な既存施設を拠点化し、観光活性化に取り組む。特にアフターコロナの新しい生活様式の下で、次世代の取り組みとして、1. モビリティーレンタル（近未来的感動移動体験）、2. テレワーク（歴史×自然×DX）、健康の取り組みとして、3. 体験プログラム開発（健康的ステイホーム）、4. 特産ブランド品開発（おにうま緊急事態宣言）などを企画し、新たな取り組みとして、町民や養老町ファン（関係人口づくり）と協働で実施し、事業収入による自立化の環境整備及びまちづくりの担い手育成を図る。

1. 養老駅舎観光拠点化構想事業（近未来的感動移動体験）

養老駅周辺及び公園エリアの回遊性向上と事業収入の確保を目的とする第3次交通手段のレンタルサービスを導入する。

2. 養老駅周辺環境活性化構想事業（歴史×自然×DX）

養老鉄道養老駅から養老公園にかけて点在する観光施設において、テレワークと体験型コンテンツの充実を中心とした取り組みを行い、訪問者の滞在時間の延長及び消費・経済活動の向上を図る。

3. ヘルスツーリズム構想事業（健康的ステイホーム）

養老町の観光のキーワードとして位置付けられる「健康」「長寿」をテーマに、それぞれの分野における専門家と連携して、屋内外で取り組みが可能な体験型プログラムの開発と磨き上げを行う。

4. 地場商品×地域資源による商品開発・特産ブランド開発（おにうま緊急事態宣言）

養老町における地場商品、地域資源を基にしたグルメ関連の新規商品（ランチ・スイーツ・スナック等）、特産ブランドの開発については、各方面の料理の専門家等と連携して、地元根差したコンテンツを創出すべく取り組む。

## 【事業のKPI】

### 養老駅観光拠点推進プロジェクト

		項目	数値（増加分） 上段計画 下段実績 <small>※実績*表記は年度末集計であるため未計上</small>	単位	設定理由
アウトカムベース のKPI	KPI①	観光入込客数	25.00	千人／年間	観光拠点化の推進による本事業の効果を客観的に判断することが可能な指標である。
			*****		
	KPI②	特産ブランド認証品売上額	4,450.00	千円／年間	売上額の推移を客観的に把握でき、観光消費による産業振興の効果を総合的に判断することが可能な指標である。
			*****		
	KPI③	観光拠点施設来場者数	0.00	人／年間	観光資源の連携を促進し、周遊による観光客の滞在時間の増加を客観的に判断可能な指標である。
			5,700.00		
	KPI④	新商品開発数	1.00	個／年間	観光消費拡大に寄与し、事業者の自立性を判断することが可能な指標である。
			2.00		

#### 【今後の計画】

1. 養老駅舎観光拠点化構想事業（近未来的感動移動体験）  
グリーンスローモビリティを中心に可能性を検討しつつ新たなモビリティの調査も並行して実施予定。
2. 養老駅周辺環境活性化構想事業（歴史×自然×DX）
  - ①【ワーケーション】⇒BtoB、BtoCの両面からプログラムを更に磨き上げ、各プレーヤーへ移行を進める。
  - ②【体験プログラム】⇒公園内の閑散期の需要掘り起こし、消費拡大のため、季節ごとのニーズを検証しつつ、自走に向け、各プレーヤーへの移行を進める。
3. ヘルスツーリズム構想事業（健康的ステイホーム）
  - ① 周辺事業者が公園内でウォーキングやヨガなどの「健康プログラム」の実証が行える体制を構築する。
  - ② 公園内の閑散期の需要掘り起こし、消費拡大のため、季節ごとのニーズを検証しつつ、自走に向け、各プレーヤーへの移行を進める。
4. 地場商品×地域資源による商品開発・特産ブランド開発（おにうま緊急事態宣言）  
ご当地グルメ、スイーツ、令和3年度開発商品を含め、販路拡大、PRを強化 養老町の「食」を強化し町内消費の拡大を目指す。

## ア. 養老駅舎周辺で利用できる第三次交通手段のレンタルサービスの導入

養老駅周辺及び公園内事業者（お土産店等）と連携して、周辺地域で利用できる第三次交通手段、次世代型モビリティ器具の貸し出し、シェアリングサービス等のサービスを導入する。具体的には電動アシスト付き自転車、電動キックボード、歩行支援ロボット等を候補とし、公園エリアの回遊性向上をめざす。

### 1. 【前年度からの継承】非電力歩行支援器具「aLQ」

製造事業者である(株)今仙電機製作所と打合せを行った結果、下記事実が判明

- ①開発以降、「aLQ」の販促、実証を行ってきたが想定通りの結果が得られず、会社としては当製品には区切りをつけ、今後販路拡大を行う意向は無い（HPは2021/12を最後に更新停止）
- ②観光地での利用としては犬山市の旧名鉄観光ホテルに無償提供し実証を行ったが、特段の反響無し
- ③以上の理由から養老町内におけるレンタル事業者としての参画予定、意向なし

開発・製造事業者の方針（販促中止）を勧告し、見送り

### 2. 【前年度からの継承】電動型歩行支援器具「CURARA」

前年度報告書、製造業者である Assist Motion(株)と打合せ、その他調査により下記事実が判明

- ①前年度調査では装着時間(約10分)、重量(約5kg)、導入維持コスト(購入時約174万円、レンタル時8.8/月＋メンテナンス)、養老公園実証時のアンケート結果(購入・レンタル希望者ゼロ)というネガティブ要素あり
- ②実証は主に「介護施設」等、室内が中心であり、観光地の実証も行われている、事業化には至っていない（伊勢原市、浜松市等）

導入維持コストがかかり、費用対効果が見合わない（採算赤字）ため、見送り

ア. 養老駅舎周辺で利用できる第三次交通手段のレンタルサービスの導入

## 3. 【前年度からの継承】 グリーンスローモビリティ(7人乗りカート)

- ①今年度事業では実証実験不可につき、養老公園内で一般向けヒアリング調査のみを実施
- ②前年度調査、他市町事例（東御市）等を活用し、実施方法・採算性の提案書を作成中

調査結果をまとめた提案書を提出予定

## 4. 【新規】 電動キックボード等その他モビリティの検証



電動キックボードを1案として、街中や観光地での広がり、法改正を控え、調査、検討を実施

- ①電動キックボード製造事業者へのヒアリング、試乗体験、既に事業化しているレンタル事業者への調査、近隣自治体(岐阜市、一宮市)の実証実験調査を実施
- ②調査を踏まえ、養老公園事務所、岐阜県都市公園課に実証の打診を行うも「安全性が担保できない限り実証実験は認められない」と回答あり（自転車も同様）

施設管理側の見解により「公園内での実証実験」は不可

次年度

グリーンスローモビリティを中心に導入の可能性を検討しつつ  
新たなモビリティの調査も並行して実施予定

## イ. 駅周辺の観光・宿泊施設におけるテレワーク・ワーケーション商品・体験型プログラムの開発

養老鉄道養老駅から養老公園にかけて点在する観光施設において、テレワークと体験型コンテンツの充実を中心とした取り組みを行い、訪問者の滞在時間の延長をはかる。

### 1. 町内の宿泊施設でのワーケーションプログラムの実施

#### (1) 【法人向け】アウトドア研修・オフィス体験プログラム (Work + Communication)

- ・業務提携先「(株)スノーピークビジネスソリューションズ」と連携し、公園内キャンプ場のBtoBニーズ開拓、平日利用促進を目的に、「RECAMP養老」にて、アウトドア研修、アウトドアオフィス体験を実施予定（参加企業の募集開始中）



3月2日アウトドア研修体験、3月8～10日アウトドアオフィス体験を実施予定

#### (2) 【個人向け】ワーケーション体験プログラム (Work + Vaction)

- ・「(株)日本旅行」と連携し、「YOROoffice」と「ゆせんの里 ホテルなでしこ」、体験プログラムを組み込んだワーケーションプランを策定
- ・モニタリングツアーを実施済み（実施日：12月22、23日、1月19、20日）



引き続き、2月中もモニター募集し、需要調査中(旅行商品として販売検討)

#### (3) 【ベンチャー向け】地域課題解決プランプログラム (Work + Innovation)

- ・ベンチャー企業の連携コミュニティ「NEXs Tokyo」と連携し、養老町を題材としたイベント（ベンチャー×地域の課題解決）を企画し、10月14日に募集説明会を実施済み（8社参加）



2社から課題解決の提案・現地ツアーモニター応募あったが、実現可能性が見込めず不採択

## Ⅰ. 駅周辺の観光・宿泊施設におけるテレワーク・ワーケーション商品・体験型プログラムの開発

### 2. 体験プログラムの構築

#### (1) 薬草染め体験会

- ・揖斐川町の事業者「麻処さあさ」と連携し、「RECAMP養老」にて「薬草染め体験会」を実施(12/10)
- ・募集時には半日で当初想定の定員20名を上回る申し込みがあり、実施後も参加者から高い満足度が得られた（参加者25名）



施設側からの評価も高く継続開催の要望あり、2月18日再度実施予定（定期開催を検討）

#### (2) スプーンづくり体験会

- ・養老町内の事業者「久保田家具工房」と連携し、「RECAMP養老」にて「木工ワークショップ」を実施(1/28)。
- ・1月28日実施済みであり、高い満足度が得られている（参加者8名）



定員（6名）を上回る申込があり、一定の需要確認(工作キット納品や定期開催を検討)

#### (3) 星空観賞会

- ・望遠鏡メーカー「(株)ビクセン」と連携し、3月4日、「RECAMP養老」にて「星空観賞会」を実施予定
- ・眺望のよい養老公園の強みを活かし、滞在時間の延伸、観光消費額の増加を目指す



自走化に向けて機材貸出を組み込んだ星空観賞プランなど、様々な可能性を検討

## イ. 駅周辺の観光・宿泊施設におけるテレワーク・ワーケーション商品・体験型プログラムの開発

### 2. 体験プログラムの構築

#### (4) モルック体験会

- ・公園内でターゲット層に人気のある「モルック体験会」を試行
- ・「養老町モルック協会」と連携し、10月21、22日に実施済み（参加者合計78名）



一定のニーズが確認できたため、養老公園事務所やキャンプ場での有料レンタル品として検討

#### (5) 「映えスポットめぐり」プログラム

- ・公園内の周遊性向上、SNS上での情報拡散を目的に「絶景プロデューサー/詩歩（Shiho）」氏と連携し、公園内の“映えスポット”を取材選定済み（11月24、25日、14スポット）
- ・SNS総フォロワー100万人超の本人アカウント・ブログにて掲載



“スポット撮影のアクティビティ化”のため、Stroly(デジタルマップ)との連携を検討

次年度

#### 【1.ワーケーション】

⇒BtoB、BtoCの両面からプログラムを更に磨き上げ、各プレイヤーへ移行を進める

#### 【2.体験プログラム】

⇒公園内の閑散期の需要掘り起こし、消費拡大のため、季節ごとのニーズを検証しつつ、自走化に向け、各プレイヤーへの移行を進める

## ウ. 健康をテーマにした滞在型プログラムの開発（ヘルスツーリズムの構築）

養老町の観光のキーワードとして位置づけられる「健康」「長寿」をテーマに、それぞれの分野における専門家と連携して屋内外で取り組みが可能な体験型プログラムの開発と磨き上げを行う。

### 1. クアオルト健康ウォークの導入

- ・(株)日本クアオルト研究所と打合せの結果、ガイド育成や看板設置費用に相応の費用がかかることが判明（看板設置費は本事業費からの捻出不可）
- ・岐阜市や関市では健康福祉系部署の管轄で定期的に開催中（岐阜市ではパッケージ商品としてテスト販売）

▶ 導入費用、費用対効果を勘案し「見送り」（岐阜市等で取組中プランの調査）

### 【代替案】ノルディックウォーキングの導入検討

- ・養老町スポーツクラブと連携し、ノルディックウォーキング（昼食付モニタープラン）を試行
- ・2月3日、千歳楼にて昼食付ノルディックウォーキングプランを実施済み（参加者9名）



▶ 食事だけではなく、体験プログラムや温浴施設と連動したニーズあり

## ウ. 健康をテーマにした滞在型プログラムの開発（ヘルスツーリズムの構築）

### 2. 体験型プログラムの開発

#### （1）青空ヨガ体験会

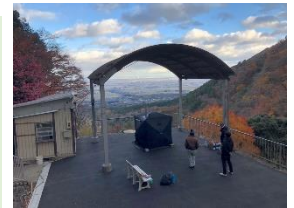
- ・公園の眺望を活かした「青空ヨガ体験会」を試行
- ・大垣市の事業者「ノウヨガスタジオ」と連携し、10月22日、11月19日に実施済み（参加者8名）



景色が良く参加者の満足度は高いが、10月下旬以降は肌寒くなり、ニーズが落ち込むことが判明（ワーケーションの体験プランにも組み込み需要調査中）

#### （2）テントサウナ体験会

- ・ターゲット層に訴求力のある「テントサウナ」を検討
- ・養老公園事務所、岐阜県都市公園課と打合せにて公園内での実施は不可との回答あり
- ・「(株)養老ロープウェー」と連携し「さんぷく展望台」にて12月15日、関係者向け体験会を実施



2月25日に一般向け体験会を実施予定（冬季にも関わらず定員超の応募あり）

次年度

- ①周辺事業者が公園内でウォーキングやヨガなどの「健康プログラム」の実証が行える体制を構築
- ②公園内の閑散期の需要掘り起こし、消費拡大のため、季節ごとのニーズを検証しつつ、自走化に向け、各プレイヤーへの移行を進める

## エ. 特産ブランドの開発及びマーケティング

地域経済の振興及び町のブランディング力を高める取組の「養老町特産ブランド」認証・PRを発展させるべく、若年層をターゲットとした新商品を「ターゲット層×町内事業者×プロフェッショナル」共創で開発する。

### 1. 特産ブランドの開発

#### (1) 特産ブランド新商品開発ワークショップ

- ・町内事業者を募集し、2事業者から応募あり（パティスリー暦、松野屋）
- ・「パティスリー暦×岐阜女子短期大学」「松野屋×椋山女学園大学」の組み合わせで、ワークショップを実施(現在第4回ワークショップまで実施済み)



2月28日に最終発表会を実施予定（スイーツ2種、ドリンク1種開発中）

#### (2) 養老町ご当地グルメ開発

- ・「シズル(株)」と連携し、取材視察、鳥羽シェフ考案ベースレシピ完成
- ・11月22日第1回意見交換会(参加者10名)、1月25日第2回意見交換会(参加者6名)を実施し、参加店舗拡大に向け活動中



3月23日の最終発表会に向けて各事業者、試作品ブラッシュアップ中

### 2. テストマーケティング

- ・11月5日養老公園内で(キューグルテスト販売…50個完売)、11月27日養老SA下りにて、既存の「養老町特産ブランド&開発商品」のテスト販売会を実施



テスト結果を受け、来年度は商流拡大に向けたより具体的な施策、PRを検討（商談会など）

次年度

ご当地グルメ、スイーツ、令和3年度開発商品を含め、販路拡大、PRを強化  
養老町の「食」を強化し町内消費の拡大を目指す